

鼠径ヘルニアの疑いからのリンパ節炎が  
原因への処方です。抗生剤を使わずに治癒した3才男児のケース

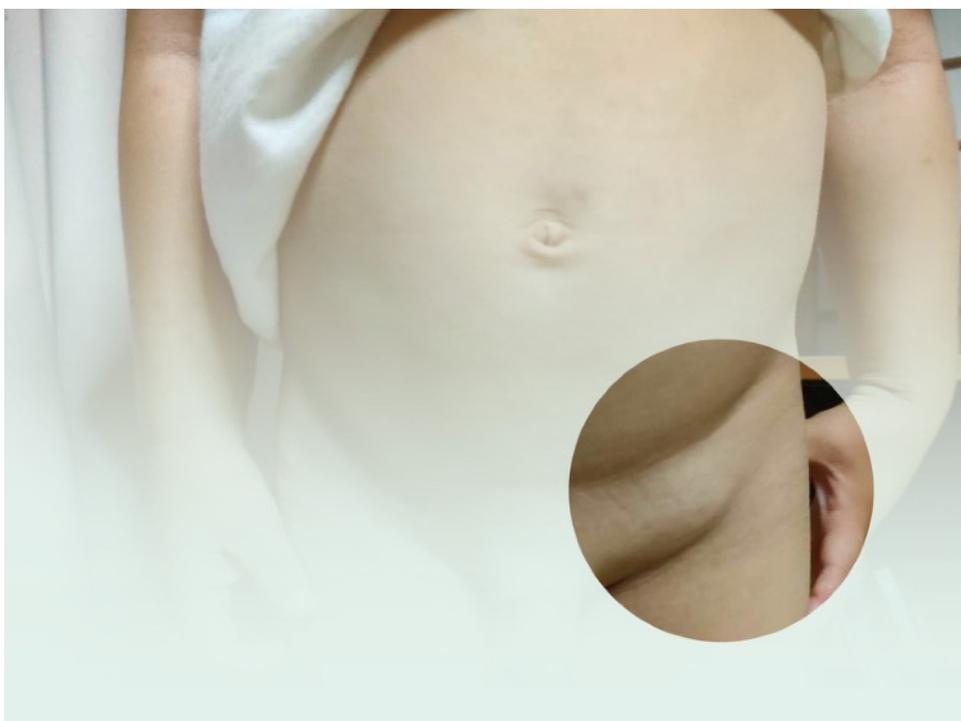
JPHMA認定ホメオパスNo.0742

道繁 良

【2024年7月18日 急性相談の依頼】

息子の左の鼠径部が腫れていて、痛くて泣いている。かかりつけ医でエコーをしたところ「なんだこれは！」と医師が驚くほど患部に血流が流れているらしく、鼠径ヘルニアの疑いで医大を紹介され受診。しかし医大での診断結果はリンパ節炎で抗生剤が出され、来週再診予定だが、抗生剤は摂らせたくない。母は保育園の看護師で、子供に牛乳を飲ませたくない母親たちの申し出を受け入れるなど融通を聞かせてくれる方として自然はママたちをサポートしてくれる方でもある。

【7月18日の状態】



急性ミニ相談を実施。痛みは患部を触ると痛がる。触っていない時もある。患部の赤みや熱はないことから、急性の炎症による腫れというよりも感染症による病原体と戦った後のリンパ節の腫れ、または慢性的な炎症を疑い、アレルギーについての質問と感染症についての質問をしたところ、大豆アレルギーがあるが、減感作療法的に最近保育園では食べるようにしていたこと、約2週間前から痰のからむ咳が続いていたことが母親からの話で分かる。母親はYoboキットとベーシックキットを持っているのでそこから選択。

【適用レメディィー】

Dros. 30C 痰のからむ咳、瘰癧（結節の腫れ）や結核による瘢痕組織を溶かしてくれる

一日一粒一週間

Nux-v. 30C 食物アレルギーへの反応を和らげるため 一日一粒一週間

Bac. 200C 一日一粒 悪化があれば止める できれば一週間とる

粘液生産の多い淋病より結核傾向を鎮めるため、本人の予防接種歴はないが、日本人は代々結核菌をBCGにより入れられているため

#### 【7月26日の母親からの連絡】

あれから少しずつ腫れが引いて来てだいぶよくなったようです。相談した日の夜にはもう痛くないよと言っていました。医大ではこのまま様子を見てとのことでした。

#### 【7月27日の状態】



#### 【考察】

何がリンパ節の炎症を起こしているのか？原因と思われるものをしっかり探り、その見立てに対するレメディーを選んだことで速やかに確実に改善していった。懸念していた悪化もみられなかった。生意気な言い方になるが、症状を抑えることは原因を探らなくてもできる。例えばホメオパシーでは抑圧が起こりにくい療法であるとしても、細菌感染による炎症だから抗生剤という西洋医学の見立てを元に、BellやApis.、ホメオパシー抗生剤のエキネシアというような選択は、やはり対処療法的アプローチであり、ホメオパシーのポテンシャルを真に活かせなくなると考える。ホメオパシーの原理である症状の同種を求めていけば良いレメディーに辿りつけるはずだが、本ケースのように子供で言語化が難しく、症状像が取りにくく、乏しい場合に「原因は何か？」という仮説を自分の中でしっかりと立て、アプローチできたことが良い結果につながったと考える。